

特別講演 1

安全・安心、そして快適な高速道路走行を目指して

中日本高速道路株式会社 名古屋支社長 稲葉 英憲

名神高速道路の栗東～尼崎間 71km が 1963 年に開通して以来、44 年の歳月を経て、現在約 7 千 4 百 km の高速道路ネットワークが全国に展開されています。この高速道路ネットワークと一般有料道路を 1 日約 640 万台、そのうち中日本高速道路株式会社の営業道路で約 165 万台、名古屋支社管内で約 60 万台のお客様にご利用いただいています。

この間、高速道路事業が推進されていく中で、自動車の普及、性能の向上、事故・渋滞の増加とともに様々な研究や工夫を積み重ねて現在の高速道路が機能していますので、この機会に、『安全・安心、そして快適な』というキーワードのもと、日頃ご利用いただいている高速道路のことを、より多くの方に、より詳しく知っていただくために、その一端を紹介します。

1. 道路計画

- 鉄道の設計法である直線と円曲線を組み合わせた名神から、ドイツのアウトバーンの設計法であるクロソイド曲線を採用した東名。
- 景観資源を取り入れた道路設計、ランドマーク、シークエンス。
- 人と車の欲求を満たす休憩施設の配置計画。
- 園地、周辺景観との調和による安らぎ空間の確保。緑のハイウェイ。
- 舗装や駐車場に厚さ対策を施した快適空間の確保。

2. 案内標識・情報提供

- 高速走行の視認性・判読性を考慮した文字の大きさ、字体、一般道と区別した緑色の採用。
- 逆光対策や夜間照明など標識の高機能化。
- 動的な情報を提供するための情報版の採用。大阪万博で初めて導入した集中交通管制システム。
- 所要時間や、休憩施設混雑情報の提供。
- 情報版の帯表示や色彩表示の工夫。複雑な構造に対する図形表示の追加。

- ハイウェイラジオ、ハイウェイテレフォン、ハイウェイ情報ターミナル。

3. 交通安全

- お出かけ前の点検と情報収集。後部座席のシートベルト。落下物、渋滞、逆走などに対する防衛運転。
- 高機能舗装、高視認性区画線や反射材などを用いた事故防止対策の推進。
- ナトリウム灯から蛍光灯に進化したトンネル照明の光源。
- マナーとルールが基本。重大な二次事故を防止するための事故発生時の対応。

4. これからの高速道路

- 目的地としての高速道路、ハイウェイオアシス、ランドマーク SA など。
- 温泉、シャワー、コインランドリー、レストインに加え、サービスエリアをもっと便利に、もっと魅力的に。
- 速弁、高速日和、オンラインショッピング。
- 第二東名リーディングプロジェクト。

平成 13 年 3 月末にサービスが開始された ETC は、平成 19 年 7 月現在で全国の利用率が 68% を越えるなど着実に増加し、料金所渋滞の解消など多大な効果を発揮しています。また ETC は、料金割引社会実験など、多様で弾力的な料金設定を可能にしており、沿道環境改善や交通集中渋滞の緩和、交通安全対策としての効果も期待できます。

中日本高速道路株式会社では、大都市圏を結ぶ東名・名神、中央道などの重交通路線を常時安心してご利用いただくための保全・サービス、第二東名・名神等の整備による信頼性の高いネットワークの形成、サービスエリアでのお客様満足の向上と地域と連携した新たな事業展開により、地域の発展と暮らしの向上、更に広く日本経済全体の活性化に貢献していきます。